

# χάρις

小月教会CS通信 No.6  
カリス (恵み)  
July, 2011

—あなたがたの救われたのは恵みによるのです  
(エフェソの信徒への手紙2:5)

■今月のメッセージ

「戦えギデオン」

主はギデオンに言われた。「手から水をすすった三百人をもって、わたしはあなたたちを救い、ミディアン人をあなたの手に渡そう」(士師記7:7)

今回取り上げるのは、士師記の中でギデオンの物語です。ギデオンはミディアン軍を倒すべく、立ち上がりました。ミディアンの軍は12万人。大軍勢です。そんなミディアンに立ち向かう、ギデオン率いるイスラエル軍の数は、3万2千人でした。3万2千対12万。これだけでもかなり不利な戦いである事は明らかです。しかし、神様はギデオンにこう言われました。「戦いの前に、少しでもこわがっている者はすぐ帰れ」。そうすると、3万2千人のうち、2万人の兵士は家に帰ってしまったのです。残りは1万人。1万対12万ですから、更に勝ち目が薄くなってしまいました。

さて、1万人に減ったイスラエル軍ですが、そこで神様はこう言われました。「膝をついて犬のように水を飲む者は帰らせなさい」。水を手にすくって飲んだ者の数は、1万人のうちわずか300人で、残りの9,700人は犬のように膝をついてかがんで水を飲みました。イスラエル軍は一気に300人にまで減ってしまったのです。

犬のように水をすすろうと膝をつく、両手もつかないといけません。両手をつくとなると、武器や盾は当然そこらにひとまず置いておく事になります。また、直接口をつけて水を飲むとなると、視界は完全にさえぎられて、目の前には水しか見えなくなってしまいます。水を飲むという目の前の欲望に目がくらんで、戦いのための武器も捨て、周りも見えなくなった状態です。神はそのような、自分の欲望に勝つ事ができない人を、大事な時に用いられません。

対して、手から水をすくって飲むのであれば、少なくとも片手は自由に使えますから、水を飲みながらでも剣なり、槍なり、盾なりを片手で構える事ができます。更に、視線が前を向いていますから、もし敵がいきなり襲いかかってきても対処できます。何せ、水を飲みつつも片手からは武器を離さないのですから、準備は万全です。このように、よい物が与えられた時に



でも、常にその物に溺れず、前を向いて武器を手放さない者を、神様は用いられるのです。

では我々にとって、水を飲む時も手放してはならない「武器」とは何か。言うまでもなく、それは神様の御言葉です。聖書であります。この世の誘惑の中にあっても、決してその誘惑に溺れず、常に目を上げて神様を仰ぎ、手には神様の御言葉をたずさえよと、この箇所からはそういうメッセージが読み取れるのです。(M.O)

■牧師の一言

「ほんとうの神様・2」

学者たちの調査するところによると、世界の宗教は、はじめは多神教だったといえます。誰でも、これが神様だと思えば、それが神様になるんです。ですから、およそ人間の数だけ、神様があることになります。

例えば、一人の人がおぎゃあと生まれたときに、お母さんがしっかりとつかんでいた貝殻があったとします。これがお前の生まれたときに、お前を守ってくれた神様だよ、ということになると、貝殻が神様(守り神)ということになります。

しかし、やがて成人してたくさんを経験しているうちに、どうもこの貝殻は神様ではないようだと考え始めます。やっぱり、私の神様はこの貝殻ではなくて、この石ころらしい、なぜなら、貝殻はすぐに割れてしまうが石ころはいつまでも割れない、だから私の神様はこの石ころなんだ、と思ひ込み、これまで神様だと思っていたものを捨てて、石ころを新しく神様とするのです。

そして、人生で難しい問題に出会ったりするともう一度別な何かを神として拝むのです。

この話は決して昔話ではありません。現在でも、本当の神様を知らないでいて、つぎから次へと新しい神様、宗教に入り込んでいる人がいるではありませんか。その意味で、私たち日本人は残念ながら、宗教的知恵足らずな民族だといえるかもしれません。本当の神様をさがそうとは思いませんか。ご一緒にたずねてみましょう。(牧師・篠原満)



7月の教会学校

7月10日(日)  
お話/K.M  
7月24日(日)  
お話/M.O  
※聖書のお話と讃美歌。  
朝9時半から30分間です。

夏のバーベキュー

8月20日(土) 11:00集合  
会場は豊田湖畔公園です。  
参加費は子供500円、大人は1000円です。ぜひご参加ください。